

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1067名

令和6年10月1日号



コミュニケーションとは、「分かち合う」こと

校長 田邊 雅也

10月、11月は「いじめ防止月間」

埼玉県では、11月を「いじめ撲滅強調月間」に、朝霞市では10月、11月を「いじめ防止月間」に制定し、いじめの根絶に集中的に取り組んでいます。

学校では、落ち着いて過ごしているように見える学級ばかりです。しかし、教師や保護者の見えないところで、子供たちは、思ったことをそのまま話したり、時には乱暴な言葉や相手が傷つくような言葉で表現したりすることもあります。日本語が未熟なところもあるため、ちょっとしたことで、トラブルに発展することは少なくありません。今回は「いじめ防止月間」をコミュニケーションの観点から考えてみました。

コミュニケーションとは「分かち合う」

「コミュニケーション」とは、「対話」や「情報伝達」を意味する言葉だと思っていました。しかし、語源を調べてみると、ラテン語の「Communis（コムニス）」が由来で、「共通の」、「共有する」、「分かち合う」という意味がありました。

日本人は、お互いの表情の変化や声のトーン、場の雰囲気など、言葉以外で理解し合える人が多いと言われています。しかし、世界に目を向けると、多民族が共に生活する国や地域が多く、そこでは、共通の文化や習慣が少ないため、考えや意見をはっきりと口に出して伝え合う必要があります。つまり、お互いの考えを「分かち合う」ことが不可欠のようです。これができてこそ、「コミュニケーション」なんだ、という方もいらっしゃると思います。

忍耐と柔軟と寛容

日本で生活していても、学校生活、家庭、友達、仕事等の関わりの中で、お互いの立場や考えの違いを理解できず、イライラしたり、不満が溜まったりすることもあります。相手の考え、立場、違いを理解し、受け止めるまでに、お互い忍耐が必要です。また、初めて体験することや、突発的なこともあり、柔軟に考え、「まあ、いいか。」と受け止める寛容な心も必要になってきます。

こうして考えると、忍耐強さ、柔軟さ、寛容さは、「分かち合う」ための、大切な能力だと感じます。人とのコミュニケーションは実に多様で、子供も大人も、必要な能力だと思います。

リフレーミング

コミュニケーション能力を高めるためのスキルとして、「リフレーミング」というソーシャルスキルトレーニング（※）が有名です。これは、ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、枠組みをはずして違う枠組みで見るといいます。例えば、「あと一日しかない」と考えるのか、「あと一日もある」と考えるのか、他にも、何か出来ないことを「問題点」と捉えるのか、「伸びしろ」と捉えるのかでは、関わり方や行動が変わってきます。

友達同士のトラブルで、嫌な思いをすることは、学校生活を含めて日常生活によくあることです。これも見方を変えれば、相手のことが気になって、喧嘩するほど仲がいいようにも映ります。実はこれが多いのかもしれない。

トラブルは、「生きて働く力」に

捉え方を変えて、気持ちを明るくして、相手と「分かち合う」ことができるコミュニケーション能力は、誰もが身につけたい、「将来にわたる、生きて働く力」です。グローバル社会で生き抜くと言われる供たちにとって、多様な人との関わりの中で、「分かち合う」ことのできる力は必要不可欠です。

朝霞市では、10月、11月は「いじめ防止月間」です。いじめにつながらないよう、大人の見守りが必要な時もありますが、友達とのトラブルを「分かち合う」ことで乗り越えていくことは、子供にとっては成長のチャンスとも言えます。何かお困りごとがあれば、気軽にご相談ください。学校・教師と保護者で、気持ちや考えを分かち合えたら幸いです。

※ソーシャルスキルトレーニング（SST）…人との関わり方に困難を抱える大人や子供が、人間関係構築において必要なスキルの習得を目指す訓練。